福井県衛生環境研究センター研究員活動報告　概要

テーマ	ヨシ群落を利用した湖沼の水質改善とヨシ等の有効利用技術（バイオマスエタノール等）に関する研究について
番　組	FBC リアルタイムフクイ
担当者	加藤賢二（環境部）
場　所	衛生環境研究センター
日　時	取材：平成２０年９月２４日、放送：９月２９日
概　要	「ヨシ群落を利用した湖沼の水質改善とヨシ等の有効利用技術（バイオマスエタノール等）に関する研究」について取材を受けた。答えた内容は次のとおり。 ①　研究目的および必要性 湖沼の水質浄化や生物多様性保全の観点から、ヨシ群落の保全・再生の取組みが重要であり、本県でも水生植物を植栽した浮礁の設置や渚護岸の整備に取り組んでいる。 ヨシなど水生植物による水質浄化の十分な効果を得るためには、富栄養化の原因物質である窒素・燐を吸収して成長した植物体を系外除去（刈り取り）する必要があるが、刈り取り後の利用として、梅林の肥料に一部利用されているほかは有効な利用方法がない。 そこで、湖沼に繁茂するヨシ等の有効利用により湖沼の水質改善を図るとともに将来的な地球温暖化対策に繋がる。 ②　進捗状況 ・糖類の分析手法（スクリーニング手法）を確立した。 ・ヨシ・ヒシを用いて化学分解法および腐朽菌を用いた糖生成手法を検討中。 ③　研究内容および成果等 ヨシや三方湖に大量繁茂したヒシをバイオマス資源としてとらえ、最終段階のエタノール製造技術まで開発することによって、新たな有効利用の可能性を確保し、湖沼の水質浄化を促進させる。 また、ヨシやヒシ植物を原料とする研究は、他の植物を使ったバイオマスエタノール技術への応用が可能であり、将来的な地球温暖化対策に繋がる。